



中学生の時、初めて我が家にやってきたワープロは、画面はほんの1行が見える小窓。文面のレイアウトなどで、ただ文字を連ねるだけ。それでも次々ときれいな文字が打ち出される嬉しさに、ひたすら文字を打ち込んでいました。

その後、機器は目覚ましく発達し、文字の大きさや書体、色、文書のレイアウトなど、自由自在に作れるようになりました。まちなかでも、手書きの文字を見る機会はめっきりと減っています。

それでも、レトルトやフリーズドライなど手軽でおいしい食品がいくら出回っても、手作りの味わいは決して色あせないように、いくら便利に文字を作れる時代になっても、手書きの文字も残っていくと思うのです。世の中にも、本山小学校の子どもたちの中にも。



【ここにも手書きの味わいが】

分かち合う言葉も ころも ここに ~書道パフォーマンス~

この日、書道家の小山梨風先生が書道パフォーマンスで書いてくださった文字は、「飛翔」「思い出を胸に」「新たな舞台へ」、そして「ありがとう 本山小学校」でした。中には、1年生には読めない漢字も多く含まれています。それでも、小山先生が文字に気持ちを込めた10分間、1年生の子たちも固唾をのんで一挙手一投足に見入っていました。右の写真の奥が1年生ですが、どの子も目を離しません。4年生の児童が「魂が一つ一つの文字に込められていて魅力的」と言いましたが、1年生もそれを肌で感じているのでしょう。



そのほかにも、書道パフォーマンスの直後に、子どもたちは、次のような感想を述べました。

- すてきな字を書いてくれて、嬉しかったので一生忘れません。(1年生)
- 小山先生が一つ一つの字を書いている時に、心が温かくなって、涙がでそうになった。(2年生)
- 今年4月から中学生になるので、このことを思い出しながら頑張りたい。(6年生)

書を通して、小山先生の思いと私たちがつながりました。

オペラは、舞台美術や音楽、脚本などが融合した総合芸術と言われますが、小山先生の書道パフォーマンスも、書と美術、先生の所作も含めて全てが私たちに語り掛けてきました。作品を創り上げるその背景では、いきものがかりの「YELL」の歌が流れていました(右参照)。

作品を創る小山先生。見入る子どもたち。そこには分かち合う言葉があり、分かち合う時間がありました。漢字が読めなくても、ころからころへ伝わるものがありました。6年生は、この日のことを胸に抱いて頑張ると誓いました。

今日の書道パフォーマンスは、まさしく「YELL」の時間でした。

僕らが分かち合う言葉がある
ころからころへ 言葉をつなぐ YELL
ともに過ごした日々を胸に抱いて
飛び立つよ 独りで 未来(つぎ)の空へ
(いきものがかり「YELL」(作詞：水野良樹)より)

